

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11035	琉球語基礎	2単位 前期	1~4	講義	仲原 穰 (非)

■テーマ 琉球語の基礎を習得する。

■授業概要

琉球列島で話されている伝統的な言語は、2009年にユネスコが「消滅の危機に瀕する言語」と認定されるほど話者が減ってきている。本講義で琉球語の基礎を習得することにより、家庭や地域で琉球語を話題にし、話しはじめる基礎としたい。本講義では、沖縄の伝統的な文化について学ぶ本学の教育内容や本学の位置する地域とのかかわりを念頭に、琉球語の中でも特に「首里方言」を中心に進める。講義では、単語から句へ、さらに文へと歩みを進め、段階的に理解を進め、琉球語の基本について学ぶ。また、沖縄のわらべうたや覚えて使える表現なども紹介する。

■到達目標

1. 琉球語に関する基本的な知識を体系的に理解することができる。
2. 「沖縄語」の一つである「首里方言」の高年層（ネイティブスピーカー）の会話を4割程度理解することができる。
3. 沖縄語を用いて自己紹介や簡単な会話のキャッチボールを高年層と行うことができる。
4. 沖縄語の単語を覚え、第5回以降に行う単語のミニテストなどで着実に単語力を身に付けることができる。

■授業計画・方法

パソコンによるプレゼンテーション、板書、音声、その他様々な視覚資料を利用して講義を進める。

第1回 琉球語概説と首里方言の位置／自己紹介

第2回 首里方言の発音の特徴1（母音）

（[準備]第1回に配付したプリントを読み込み、琉球語概説を理解し、自己紹介を練習しておくこと）

第3回 首里方言の発音の特徴2（子音①）／覚えて使える表現①

（[準備]第2回に配付したプリントを読み込み、母音について理解し、練習問題を解くこと）

第4回 単語を覚えよう①（身体）／覚えて使える表現②

（[準備]第3回に配付したプリントを読み込み、子音①について理解し、使える表現①を覚えること）

第5回 首里方言の文のしくみ①（助詞① 2つの「～が」）／あいさつと言語文化／単語ミニテスト1

（[準備]第4回に配付したプリントを読み込み、子音②について理解し、身体語彙や使える表現②を覚えること）

第6回 単語を覚えよう②（季節、自然、空間）、首里方言の発音の特徴3（子音②）、覚えて使える表現③／単語

ミニテスト2（[準備]第5回に配付したプリントを読み込み、「～が」の区別やあいさつと言語文化を理解すること）

第7回 首里方言の文のしくみ②（助詞② 「～を」と「～に」と「～へ」）単語を覚えよう③（数詞）／沖縄のわら

べうた①／単語ミニテスト3（[準備]第6回に配付したプリントを読み込み、「～を」と「～に」について理解し、

季節・自然・空間語彙や使える表現③を覚えること）

第8回 首里方言の文のしくみ③（疑問文の作り方-助詞③「～か」の区別、否定文の特徴）／単語ミニテスト4

（[準備]第7回に配付したプリントを読み込み、助詞「～を」「～に」「～へ」の特徴を理解し、数詞を覚え、わらべ

うた①についての理解を深めること）

- 第9回 首里方言の文のしくみ④（動詞、形容詞、繫辞の肯定形一文の止め方）／単語を覚えよう③（代名詞）／単語ミニテスト5（〔準備〕第8回に配付したプリントを読み込み、2つの疑問文の区別や否定文について理解すること）
- 第10回 首里方言の文のしくみ⑤（動詞の特徴）／単語ミニテスト6／単語を覚えよう④（住居、衣服）
（〔準備〕第9回に配付したプリントを読み込み、動詞、形容詞、繫辞の肯定文の特徴を理解し、代名詞を覚えること）
- 第11回 首里方言の文のしくみ⑥（助詞④「～は」、「～も」）／単語を覚えよう⑤（食物語彙）／単語ミニテスト7
（〔準備〕第10回に配付したプリントを読み込み、動詞についての理解を深め、住居・衣服語彙を覚えること）
- 第12回 首里方言の文のしくみ⑦（強調文「～のだ」文の作り方—助詞⑤「こそ」）／沖縄のわらべうた②／単語を覚えよう⑥（親族語彙）／単語ミニテスト8
（〔準備〕第11回に配付したプリントを読み込み、「～は」「～も」について理解し、食物語彙を覚えること）
- 第13回 首里方言の文のしくみ⑧（形容詞の特徴）／単語を覚えよう⑦（動・植物語彙）／単語ミニテスト9
（〔準備〕第12回に配付したプリントを読み込み、強調文「～のだ」の作り方やわらべうた②について理解し、親族語彙を覚えること）
- 第14回 首里方言の文のしくみ⑨（丁寧語は簡単）／複文（文をつなぐ単語）／覚えて使える表現④／これまでの補足／単語ミニテスト10
（〔準備〕第13回に配付したプリントを読み込み、形容詞について理解し、動・植物語彙を覚えること）
- 第15回 **定期試験／まとめ**
（〔準備〕第14回に配付したプリントを読み込み、丁寧語や複文に作り方を理解し、覚えて使える表現④を覚えること。
また、第1回～14回のプリントを読み返し、沖縄語の基本を読み直しながら、練習問題などを解き直すこと）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

半期で首里方言の基礎を学ぶが、週に1度の講義であり、内容を把握し、身につけるためには講義後にプリントを振り返るなどの事後学習を行わなければならない（30分～1時間程度）。記憶はすぐに失われるが直後の事後学習と講義前の事前学習（15～30分程度）で講義内容を思い出すことで再度覚え直すことで定着させることもできる。沖縄語は現代日本語と大きく異なる特徴を持っている。基礎だから勉強しなくても簡単だろうなどと油断せずに新たな言語を習得するつもりで取り組んでもらいたい。なお、参考文献の一つ、『沖縄語の入門』（白水社）を講義後に目を通すとさらに理解が深まるので図書館などで借りると良い。

■成績評価の方法・基準

□方法 15回に定期試験を実施する（60%）。また、毎回の講義終了時に提出する「リアクション・ペーパー」の記述内容と単語のミニテストも評価に加える（40%）。この3点で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）

□教科書 なし。講義用レジュメや資料を配布する。

□参考文献

『沖縄語の入門（CD付改訂版）—たのしいウチナーグチ—』西岡敏・仲原稯[著]、中島由美・伊狩典子[協力]
（白水社、2006[2000]年）

『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義[編著]（研究社、2006年）

『沖縄語辞典』国立国語研究所[編]（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）